

日 時：平成 29 年 11 月 2 日（木）18 時 30 分 ～19 時 40 分

場 所：小和森多目的研修集会施設

対象地区：小和森

出席人数：9 名

■要望、質疑応答

| 内 容 |
|---|
| <p>○事故多発交差点の交通安全対策について</p> <p>（市民から）</p> <p>平賀駅から光城地区へ向かう交差点並びに光城地区内の交差点において、事故が頻繁に発生している。何か対策は講じられないか。また、樹木が伸び、止まれの標識が見えにくいところもある。</p> <p>（市から）</p> <ul style="list-style-type: none">・交通安全協会でも気を付けているが、行政でも旗を立てるなどし注意喚起を行っている。樹木等で止まれの標識が見えない場所は、所有者に依頼し枝を切ってもらうなどの対応をお願いしていく。・文化センター近くの交差点では、文化センターの垣根が高くなり視界不良とのことから、伐採したこともあった。・交通安全に関連し、県警では交通量の少なくなっている交差点の信号機を減らす動きがある。市内でも大坊地区で信号機が撤去された。・標識については、交通安全上のルールもあると思われるので、警察や交通安全協会とも協議し、結果を町会長にお知らせする。 |
| <p>○集会所建替えによる町会負担について</p> <p>（市民から）</p> <p>各町会で集会所の建替えの話があるが、建替えをした場合、町会の負担はどのくらいになるのか。</p> <p>（市から）</p> <ul style="list-style-type: none">・小和森町会からは以前行った意向調査により、改築する・建替えるとのことで回答を得ている。・集会施設改築については市でルールを見直し、一世帯当たり 1 万 5 千円の負担で新築できるようにした。各町会での世帯数に 1 万 5 千円を乗じた金額が、町会の負担となる。耐震改修をする場合には、その改修費は全て市で負担する。耐震改修の他に、別な部分も併せて改修するとなれば、その分は町会負担となる。・小和森多目的研修集会施設は、昭和 5 6 年施行の新耐震基準より前に建築された施設であり、耐震化のための改築・改修対象施設となっている。今の施設は、床面積が 4 0 4 |

平米あるが、昔のように冠婚葬祭で活用されることもなくなっていることから、新たに改築した場合には、288平米を見込んでいる。

(市民から)

この集会所を建てた際には、小和森財産区で負担したと記憶している。急に各世帯1万5千円を負担と言われても困る。小和森小学校のプール建設時も、財産区で負担をした。

小和森の集会所も40年近く経過するが木造建築の場合、その耐用年数はどのくらいか。

(市から)

- ・負担金を各世帯から集めるのも一つの方法だが、財産区がある地区は財産区から出してもらうのも一つの方法である。各町会、地区の状況により対応いただきたい。
- ・小和森町会の世帯数は、144世帯あるので改築した場合は216万円の負担となる。事業費推計は、300平米の集会所を建築した場合、約8千万円と見込んでいる。
- ・隣の荒田農業研修センターは昭和57年築であり、昭和56年以後に建築された建物は、新しい耐震基準を満たしているが、それ以前に建てられた建物は基準を満たしていないことが考えられることから、耐震化のために建替え又は改修することとしている。
- ・建替えるか、改修するかは各町会の考えによりさまざまである。広船町会などは、耐震改修を選択している。耐震改修に併せてリフォームもする場合には、町会の負担で対応をお願いしている。全て行政では行わないこととしている。
- ・一つの集会施設を改築するには約8千万円の事業費がかかるが、国の緊急防災減災対策債を活用し、市の負担は3割ほどで耐震基準を満たす建物に改築でき、住民の皆さんが安全・安心に利用できる施設となる。
- ・木造建築物の耐用年数が何年かは詳しく把握していないが、税務の観点から話をすると木造建築物は、24～25年で減価償却をかけている。
- ・建築物は、使用状況等により耐用年数も変化するものと思われる。

○ハザードマップについて

(市民から)

今年4月に、ハザードマップが各家庭に配布された。他の町会では、それぞれの集会施設が避難所に指定されていたが、小和森地区は集会施設ではなく小和森小学校が避難所とすることである。ハザードマップにその旨の記載があった方が良かったのではないか。

(市から)

- ・小和森多目的研修集会施設が耐震基準を満たしていないことから、集会施設を避難所としてハザードマップに記載しなかった。町会に対し、丁寧に説明するべきであった。

○AED の設置場所について

(市民から)

AED は、福祉施設やコンビニに設置されているが、集会施設にも設置すれば良いと思う。

(市から)

- ・ AED は、24時間営業のコンビニ等に協力をいただき配備している。また、企業によっては事業所内に AED を設置しているところもある。今後は、温泉施設への設置を検討している。
- ・ AED を設置する際、集会施設も検討したが、集会施設は普段、施錠していること、また風除室等に設置した場合には、盗難されること等が課題となり見送った経緯がある。
- ・ 全ての集会施設に設置できればいいが、バッテリー、パッドを定期的に交換する必要もある。
- ・ 大災害が発生した際には町会への AED 配備も考えられるが、現段階で検討していることは、温泉施設が夜遅くまで営業していることから、これらの施設への設置を検討している。市民の皆さんが使いやすいように進めていく。

○新本庁舎について

(市民から)

新本庁舎の建設場所は決まっているか。また、新本庁舎に地下はあるか。

(市から)

- ・ 新本庁舎の建設場所は、旧平川診療所跡地から現庁舎裏の駐車場にかけてとなる。旧平川診療所の地表レベルが新本庁舎の1階となる。
- ・ 庁舎の設計をプロポーザル方式により複数者より提案いただき、採用となったのが3階建てで地下のない設計となっている。地下はないが、アンダーフロアという形での設計となっている。設計者を募集する際には、ワンフロアサービスを行える庁舎となるよう要望した。併せて、高齢化社会の中で、今の階段を上ってから庁舎に入る形ではなく、バリアフリー化した庁舎となるよう、また、まちの賑わい創出ができる庁舎となるよう要望した。
- ・ 庁舎の設計者選考に際しては、大学の先生方を含めた7人で構成する庁舎建設委員会で選考したところである。

○ごみ集積ボックスの交換について

(市民から)

広報ひらかわに、これまでのまちづくり懇談会のことが掲載されるが、その中でごみ集積所についての意見が出ていた。ごみ集積所の箱が木製であり、金属製に変更できないかと意見であった。市の回答は市で整備するか、補助制度とするか検討するとのことであったが、その後方針は決まったか。

(市から)

- ・以前は集積ボックスを行政側で各町会へ配布したが、現在は補助金制度としている。
- ・平成28年度からごみ集積ボックスを町会で設置・修繕等する場合には、1か所当たり事業費の3分の2、または3万円のどちらか安い方の額を町会に補助している。今年度予算額は60万円であり、そのほとんどを執行する予定である。毎年春に、集積ボックスを設置・修繕等するか要望取りを町会に対し行っているので、小和森町会で設置・修繕等したいとなった際には、要望を出していただきたい。なお、木製にするか金属製にするかは、町会に任せている。

○生活保護について

(市民から)

生活保護受給者は、市内にどのくらいいるか。また、生活保護費はどのくらい貰っているか。

(市から)

- ・市内の生活保護受給者は、世帯数で400世帯、人数で500人ほどである。支給される金額は、その人の年金等の収入や、世帯の人数により扶助費が違ってくる。

○広報ひらかわりリニューアルについて

(市民から)

広報ひらかわが新しくなり、表紙も以前と大きく変わった。ひらかわの文字が横文字となり、馴染めない。

(市から)

- ・市では、今年度よりシティープロモーションの部門を設け、広報の作り方も8月号から変えたところである。見やすくなったとの意見がある一方、年配の方からは横文字は馴染めず、これまでの平仮名の方が良いと意見があるのも事実である。直さなければならぬ部分があれば、今後改めていきたいと思う。
- ・今年度より市で採用した地域おこし協力隊員の方が編集に携わっており、頑張っている。

○平川市の特産品について

(市民から)

平川市の特産品と呼べるものが無いように感じる。何かないものか。

(市から)

- ・平川市では、今「津軽の桃」を売り出している。その他、青天の霹靂などの米、りんご、高冷地野菜を特産品としている。桃に関しては、注文も順調に伸びているが、販売期間

が短いという課題がある。収穫後、日持ちがしないことから販売できる期間が、8月～9月までの2か月間くらいしかない。今年のひらかわフェスタは、桃の収穫時期に合わせて9月上旬に開催し、桃をメインとして開催した。桃の人气がすごくあり、直ぐに売れきれになったと聞いている。

- ・B級グルメも何かないかと模索したが、なかなかうまくいかない。

○津軽エネベジのミニトマトについて

(市民から)

バイオマス発電施設の隣のハウスで栽培しているミニトマトは、この辺でも出回っているか。

(新聞記者)

- ・この辺でも出回っている。

(市から)

- ・津軽エネベジのミニトマトは、ハウス2棟での栽培であり、そのほとんどは東京への出荷と聞いている。この辺に出回っていたとしてもハウス2棟での栽培であることから、それほど量ではないと思う。
- ・トマトに関しては、津軽みらい農協管内の出荷額が約6億円あり、そのうち7、8割がミニトマトである。ハウス内での作業は非常に暑く、収穫等の作業も大変であるが、ミニトマト農家は収入を多く上げている。

○投票所変更に伴う周知方法について

(市民から)

先日の衆議院議員選挙で、食産業振興センターの投票所に168人しか入場者がなかった。直ぐ近くのマックスバリュに共通投票所が設置されていることから、食産業振興センターの投票所は不要ではないか。また、投票所が平成町コミュニティセンターから食産業振興センターへ変更となり、食産業振興センターがどこか分からないとの話が町会の人から出ている。入場券に投票場所の記載はあるが、もっと詳しく分かるよう周知してほしい。

(市民から)

投票場所のお知らせが回覧板で回ってきたが、自宅に回覧板が来たのは投票日後であった。

(市から)

- ・投票所が変更となった場合には、回覧板でなく每户配布するなど周知方法を改める。